

さくら祭りー春爛漫の折、毎年米國の首都ワシントンにおいて開催せらるる日本關係のお祭りなり。昭和三十八(千九百六十二年)、如何なる経緯か記憶定かならねど、父より吾これに出席すること決定せりと知らせらる。半世紀も前の事にて記憶定かなざれど。十五歳の吾は何も分からず、一張羅の振袖を著せられ、ホワイト・ハウスへと赴くに、當時大統領夫人なりしジャクリン・ケネディ夫人主催のファッションショー開催せられけむ。ショーの終りに、立ち上がり拍手喝采あり。吾も共に立ち上がるに、慣れぬ振袖に吾が足を踏み入れ、その縫ひ目ビリりと裂く。時既に遅し。その直後、當日のプログラムには記載なけれど、ケネディ大統領突如として現れ、その場ををりし吾らに握手求めたり。長身の大統領のいとハンサムなること、我が記憶に長く残りけり。氣にかかれるは、大統領夫人の夫へ送る冷たき視線。思春期の吾は夫婦圓滿ならずと見受けたり。

その翌年のさくら祭りにおいて、吾行燈に火をともし「女王」に推薦せらるるも、父そを辭退し、二歳年上の公使令嬢にその任を譲りたりと聞き及ぶ。ポトマック川に面するタイダルベイスンにおいての行事に、吾は女王の補佐役として、外交ナンバーを附せる何十輛もの車列の先頭に次ぐ一輛に分乗したるを記憶す。最近は米國の若き女性たちの中より選出する美人コンテストなるもの事前に開催し、女王を決める趣旨に変更せられたり。當時日本の存在薄かりければ、この祭りこそは大いなる行事なりしか。ワシントンの櫻は日本の櫻より色濃く、枝ぶりも横に廣がりを見せ、豪華絢爛たり。然れどもこの櫻生國は吾と同じき日本なるを見るにつけて、めでたく、誇らしかりけるぞ何のゆゑともなく懐かしき。